

## コアジサシ（カモメ科） 全長 24 センチ

大仙市内を流れる雄物川に、毎年飛来するコアジサシ。繁殖のため、はるか南の赤道付近から日本に渡ってきたのです。雄物川中州の砂利の上が彼らの繁殖地です。

今年は5月中旬に最初の数羽が飛来。その後10羽まで増え中州の砂利上で抱卵が始まりました。

ところが6月上旬、雄物川の急激な増水により5か所の営巣地の卵が全部流されてしまったのです。昨年も同じような状況であったことから、今年もダメかと諦めていた処、なんと再度繁殖に挑戦したのです。再び繁殖に挑戦したのは、県内ではほぼ例がないようです。

中州の砂利層は平常の水位に対して、60センチから1メートル以内の高さしかありません。上流にはもっと高さのある中州があるのになぜここを選んだのでしょうか。



5月14日、雄物川の上空を飛びながら中州の営巣地を探しているのでしょう。

現地に毎日のように通い様子を眺めてきました。再び大雨が降らないよう祈るだけです。今年は猛暑の連続で大雨の心配はありませんでした。6月29日にヒナの姿を確認。

しかし、産卵場所は直接砂利の上で遮るものはありません。増水の心配がない反面、こんどは直射日光との戦いです。35度以上の日が毎日続いています。



営巣地を巡り、小競り合いがありました。



6月29日 親が運んできた魚をもらう。

7月9日、ヒナは流木や大きな石の日陰に避難していましたが、川岸までチョコチョコ歩き浅瀬で水浴びを始めました。親鳥の水浴びは何度も見てきましたが、ヒナの行動を見たのは初めてです。体が冷えてきたので元気になったようです。

バタバタと小さな翼を広げると、ジャンプ。わずか5センチほどです。



暑くなったので流木の日陰で休むヒナ。



あまりの暑さに緊急避難。

7月22日、ヒナはだいぶ大きくなってきました。親鳥は餌の魚をくわえてきましたが、ヒナの目の前にきても与えることはありません。

そして水際で待っていたヒナは、ついに親の後を追って飛び立ちました。

親の後を追いかける様子から、もう大丈夫でしょう。ついに独り立ちです。増水や高温にもめげずに、ほかのヒナも全て無事に巣立っていきました。



7月9日、小さなジャンプ。わずか5センチでした。



7月11日、今日のジャンプは2メートルほど。





だいぶ大きくなった。



7月22日、ついに親の後を追って飛び立っていった。